

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

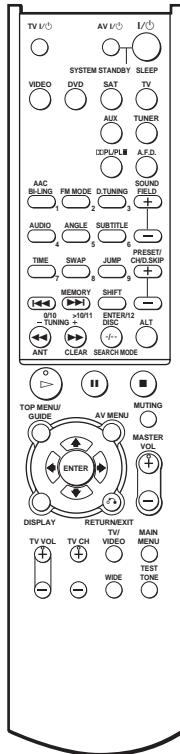
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-SL80

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。同じボタンなら本体でも操作できます。

使うボタンの位置については「各部の名称と参照ページ」(42、43ページ)で確認してください。



本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック (II) アダプティブラトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、"AAC" ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

以下が米国AACパテントナンバーです。

Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5 400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5 752 225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5 297 236; 4,914,701; 5,235,671; 07/ 640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/ 557,046; 08/894,844

**Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

目次

接続と準備

準備 1 : 箱から出したら	4
準備 2 : デジタル音声出力端子のある機器 を接続する	5
準備 3 : ビデオ機器を接続する	7
準備 4 : アンテナを接続する	8
準備 5 : スピーカーを設置する	9
準備 6 : スピーカーを接続する	10
準備 7 : 電源コードを接続する	12
準備 8 : スピーカー設定をする	13
準備 9 : スピーカーのレベルとバランスを 調節する (テストトーン)	16
設定 / 接続を確認する	17

つないだ機器の音を聞く

機器を選ぶ	19
表示窓に点灯する項目について	20
FM/A M ラジオを聞く	21
ラジオ局を記憶させる (プリセット)	22

サラウンド効果を楽しむ

入力音声を自動的に判別する (AUTO FORMAT DIRECT)	24
2チャンネルステレオ音声をマルチチャン ネルで聞く (ドルビープロロジック II)	24
サウンドフィールドを選ぶ	25
サウンドフィールドの効果を調節する	26

その他の操作 / 設定

スリープタイマーを使う	29
SET UP メニューを使った設定をする	29
リモコンの各部の名称と働き	30
リモコンの入力ボタンの設定を変える	33

その他

使用上のご注意	35
---------	----

故障かな? と思ったら	36
保証書とアフターサービス	38
主な仕様	39
用語解説	40
各部の名前と参照ページ	42
索引	44

接続と準備

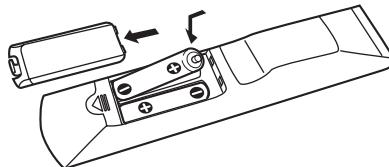
準備1：箱から出したら

次の同梱物がそろっているかを確認してください。そろっていない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へご連絡ください。

- FMワイヤーアンテナ (1)
- AMワイヤーアンテナ (1)
- リモートコマンダー RM-U40 (1)
- 単3形乾電池 (NS) (2)
- スピーカー
 - フロントスピーカー (2)
 - センタースピーカー (1)
 - サラウンドスピーカー (2)
 - サブウーファー (1)
- スピーカーコード (長) (2)
- スピーカーコード (短) (3)
- スピーカーパッド (12)
- スピーカー用シール (5)
- サブウーファーパッド (4)
- 同軸デジタルコード (1)
- モノラルオーディオ接続コード (1)
- 安全のために (1)
- スピーカー設置ガイド (1)
- スタンドのご案内 (1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)
- 保証書 (1)

リモコンに電池を入れる

+ ヒーの向きを合わせて、単3形乾電池（付属）を2個入れます。



ちょっと一言

乾電池の寿命は約6か月です。残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。液漏れや破損のおそれがあります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。雑音の原因となります。
- 映像・音声コードの黄色いプラグはVIDEO IN端子へ、赤いプラグはAUDIO IN R(右)端子へ、白いプラグはAUDIO IN L(左)端子へつなぎます。
- 光デジタル接続コードを接続するときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

準備2：デジタル音声出力端子のある機器を接続する

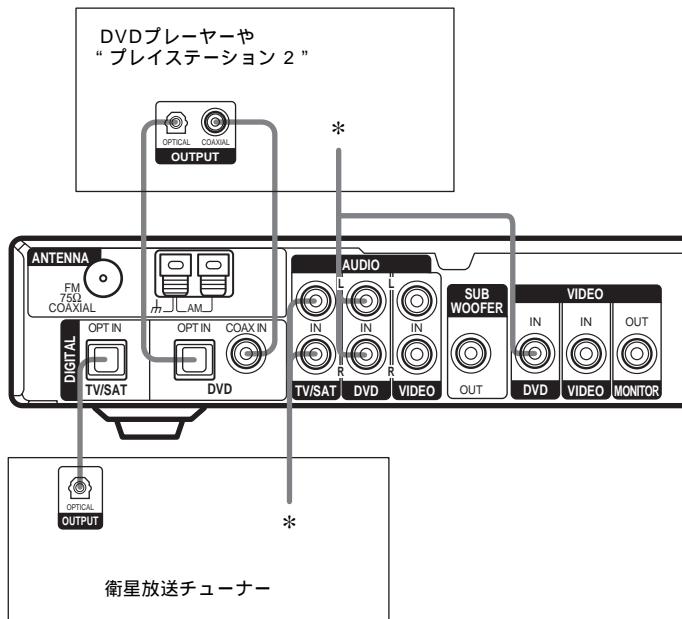
お手持ちのDVDプレーヤーやその他の機器（“プレイステーション2”やCDプレーヤー、MDデッキ、デジタル衛星放送チューナーなど）にデジタル音声出力端子がある場合は、本体のデジタル音声入力端子に接続して、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただけます。

必要な接続コード

光デジタルコード（別売り）



同軸デジタルコード（付属）



DVDとTV/SATの入力について

本機のDVDおよびTV/SATの入力端子は、アナログおよびデジタル端子の両方に他の機器を接続することができます。その場合、デジタル端子から入力されている機器の信号を優先的に出力します。

また、DVDのデジタル端子（OPT IN、COAX IN）の両方に接続することもできます。その場合、本機のスピーカーでお楽しみになりたい機器のみ、電源を入れてください。電源の入った機器の信号を出力します。

[次のページへ続く](#)

ちょっと一言

- ・本機のOPT IN端子/COAX IN端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- ・本機でマルチチャンネルサウンド音声をお楽しみいただくために、接続した機器側でデジタル音声出力の設定を変える必要があるかもしれません。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ソニー製DVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”を使うには

前ページのようにDVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”を接続したときは、各機器側で次の設定を行ってください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤー

1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する

2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする

3 「音声デジタル出力」を「入」にする

4 「ドルビーデジタル」を「ドルビー入」にする

5 「DTS」を「入」にする

“プレイステーション2”

1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する

2 「音声デジタル出力」を選択する

3 「光デジタル出力」を「入」にする

4 「ドルビーデジタル」を「入」にする

5 「DTS」を「入」にする

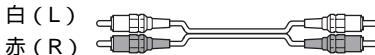
“プレイステーション2”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

準備3：ビデオ機器を接続する

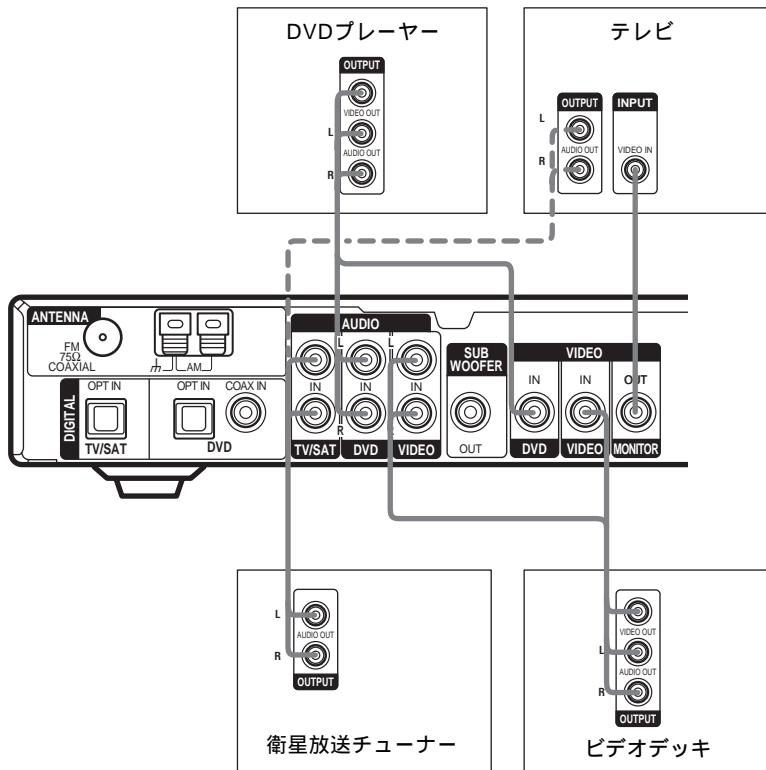
必要な接続コード

音声コード（別売り）

白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと雑音の原因になります。



映像コード（別売り）

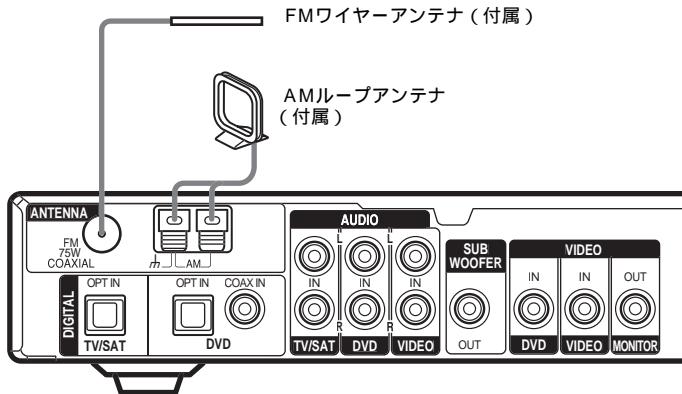


ご注意

TV/SAT端子には、テレビの音声出力または衛星放送チューナーの音声出力を接続します。

準備4：アンテナを接続する

付属のAMループアンテナとFMワイヤーアンテナを接続します。



アンテナをつなぐときのご注意

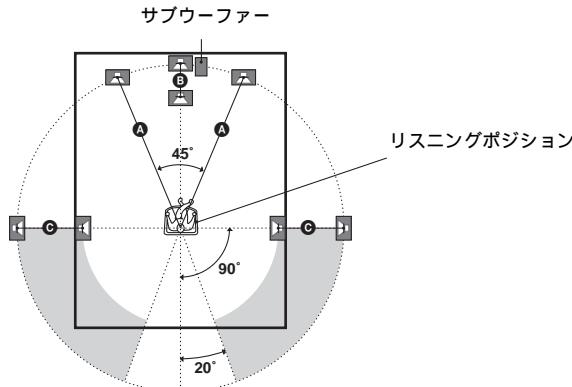
- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に張ってください。

準備5：スピーカーを設置する

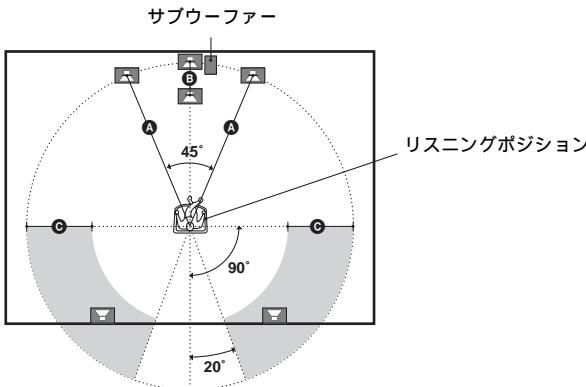
サラウンド効果を充分に楽しむためには、各スピーカーを下図のように設置してください。

- フロントスピーカーはリスニングポジションから1~7 mのところに設置してください(**A**)。
- センタースピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離(**A**)からリスニングポジションに1.5 m近づける範囲が(**B**)より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サラウンドスピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離(**A**)からリスニングポジションに4.5 m近づける範囲が(**C**)より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サブウーファーは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでと等距離の床の上(右または左)に置いてください。

サラウンドスピーカーを横に設置した場合



サラウンドスピーカーを背後に設置した場合



ご注意

センタースピーカーとサラウンドスピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

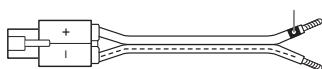
準備6：スピーカーを接続する

- 1 付属のスピーカー用シール（5色、「FRONT L」など）をサテライトスピーカーに貼る
- 2 スピーカーを設置する（9ページ）
- 3 サテライトスピーカーのシールの色と、カラーチューブの色を合わせてスピーカーコードを接続する
このときカラーチューブのある線を + 端子に接続する

必要な接続コード

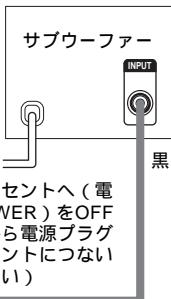
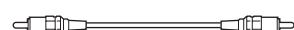
スピーカーコード（付属）

スピーカープラグ

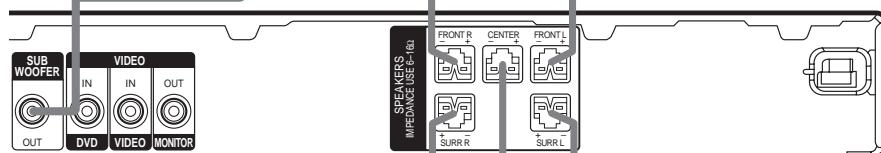
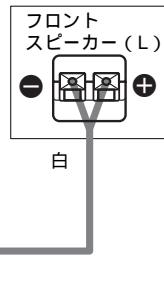
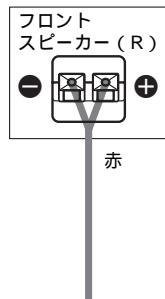


モノラルオーディオ接続コード（付属）

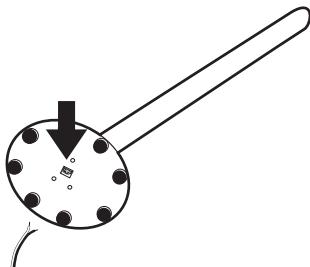
黒



壁のコンセントへ（電源（POWER）をOFFにしてから電源プラグをコンセントにつないでください）

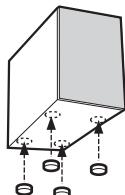


フロントスピーカーにスピーカーコードを接続する
フロントスピーカーの接続端子は底面にあります。フロントスピーカーをゆっくり倒し、スピーカーコードを接続してください。

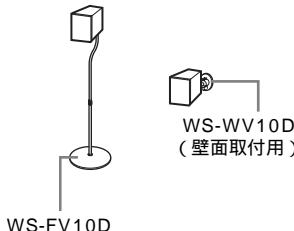


スピーカーを安定させる

聞いているときにスピーカーが振動したり移動したりしないように、付属のスピーカーパッドを、サラウンドスピーカーの底面の四隅に貼ってください。ただし、スピーカースタンド（別売り）を使う場合は必要ありません。



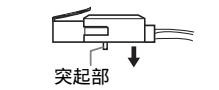
スピーカースタンド（別売り）を使う別売りのスピーカースタンド（WS-FV10D、WS-WV10D）を使うと、簡単に希望の場所にスピーカーを設置できます。



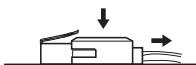
スピーカーコードを交換するには
スピーカーコードを交換したいときは、スピーカーコードをスピーカープラグからはずすことができます。

1 スピーカープラグを平らなところに押しつける。

まん中の突起部が下側になるようにします。

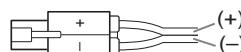


2 上から押したままスピーカープラグからスピーカーコードを引き抜く。



3 使いたいスピーカーコードの先端の被覆を約10mmはがしてねじる。上から押したままスピーカープラグに差し込む。

極性に合わせて+は+どうし、-は-どうしで正しく差し込んでください。



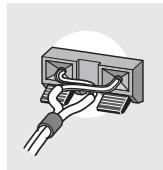
スピーカーコードを軽く引っ張り、抜けないことを確認する。

ご注意

- 長いスピーカーコードをサラウンドスピーカーに、短いスピーカーコードをフロントスピーカーとセンタースピーカーにつなぎます。
- スピーカーコードがスピーカープラグから抜けないよう、以下の点にご注意ください。
 - 細いスピーカーコードを使わないでください。AWG24からAWG18までの太さのスピーカーコードをおすすめします（外径：直径1.5mm～3mm、芯線：直径0.5～1.1mm）。
 - すべてのスピーカーに同じ太さのスピーカーコードをお使いください。
 - スピーカーコードの先端はねじっておいてください。
 - スピーカープラグの後部からしっかりスピーカーコードを差し込んでください。

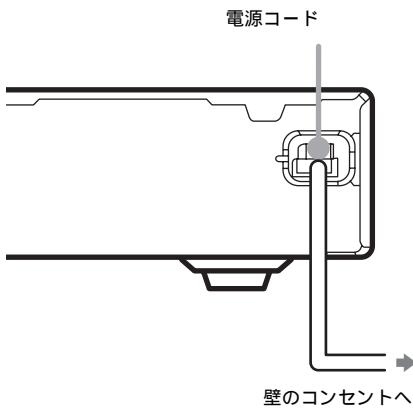
スピーカーのショートを防止する
スピーカーコードをショートさせると本機及びスピーカーを損傷したり、トラブルが発生することがあります。
他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



準備7：電源コードを接続する

すべての機器を接続した後、本機の電源コードを壁のコンセントに接続します。



準備8：スピーカー設定をする

SET UPメニューを使って、本機に接続して使用するスピーカー設定をします。

- 1 MAIN MENUをくり返し押して、「<SET UP>」を選ぶ
- 2 ↑または↓を押して、調節したいパラメーターを選ぶ
詳しくは、次ページの「スピーカーの設定項目」をご覧ください。
- 3 ←または→を押して、お好みの設定を選ぶ
- 4 手順2と3をくり返し、すべての項目を設定する

一般的スピーカーとマイクロサテライトスピーカーについて

お買い上げ時は、スピーカーの大きさとサブウーファーの設定は、付属のスピーカーに合わせて「MICRO SP.」(マイクロサテライトスピーカー)に設定されています。

「MICRO SP.」を選ぶと、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択は次のように設定されています。

スピーカー	設定
フロント	SMALL
センター	SMALL
サラウンド	SMALL
サブウーファー	YES

MICRO SP.を選んだ場合は、設定を変えることはできません。

一般的スピーカーを使用する場合は「NORM. SP.」を選んでください。「NORM. SP.」を選ぶと、スピーカーの大きさとサブウーファーの選択を設定することができます。

「NORM. SP.」を選ぶには、本機の電源を切り、本体のMUTINGボタンを押しながらI/□を押して電源を入れます。(「MICRO SP.」に戻す時は、同じ手順を行います。)

ちょっと一言

マイクロサテライトスピーカーの設定(MICRO SP.)は音のバランスが最適になるようにプログラムされています。付属のスピーカーを使用する場合は、「MICRO SP.」を選んでください。

ご注意

- マイクロスピーカーを使用していてスピーカーの大きさを「LARGE」に設定すると、十分なサウンド効果を得られない場合があります。また、スピーカーを破損するおそれもあります。
- 最大入力定格が低い一般的のスピーカーを使うときは、スピーカーへの出力が大きくなりすぎないように注意して音量を調節してください。

スピーカーの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■ フロントスピーカーまでの距離

(  DIST. X.X m)

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離 (A) (9ページ) を設定します。1.0~7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ センタースピーカーまでの距離

(  DIST. X.X m)

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離 (A) (9ページ) からリスニングポジションに1.5 m近づける範囲が (B) (9ページ) より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

■ サラウンドスピーカーまでの距離

(  DIST. X.X m)

お買い上げ時の設定：3.0 m

リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離 (A) (9ページ) からリスニングポジションに4.5 m近づける範囲が (C) (9ページ) より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

ちょっと一言

センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより1.5 m以上近くにも設定できません。

サラウンド音声用のサラウンドスピーカーも、フロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより4.5 m以上近くにも設定できません。

これらは、スピーカーの配置を適切に行い、より良い音で楽しんでいただくために設けた制限です。使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。

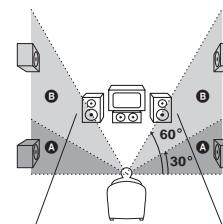
例えば、センタースピーカーを実際の距離より1~2 m短く設定すると、うまく画面の中にはまった感じがすることがあります。サラウンドスピーカーの距離が近いために、サラウンド感が不足するときは、サラウンドスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感を高められることがあります。

実際に音を聞きながら設定を変えてみると、サラウンド感が良くなることがありますので、お試しください。

■ サラウンドスピーカーの高さ

(  PL. XXXX) *

シネマスタジオEXモード (25ページ) によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの高さを設定します。



• PL. LOW

サラウンドスピーカーの高さが (A) の範囲にあるときに選びます。

• PL. HIGH

サラウンドスピーカーの高さが (B) の範囲にあるときに選びます。

*サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき (16ページ) は設定できません。

ちょっと一言

サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオEXモード専用の設定です。

通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなります。

また、リスニング環境には壁の反射もあります。つまり、実際に設定してみて、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりの良いほうを選択するのが良いと思います。迷ったら「PL. LOW」に設定し、距離や音量を調節してより良い広がり感になるようにしてください。

付属のスピーカー以外のスピーカーを使用する場合のみ、以下の項目を設定してください。

「NORM. SP.」(一般的なスピーカー)について詳しくは13ページをご覧ください。

■ サブウーファー (S.W. XXX)

- YES

サブウーファーを接続した場合に選びます。

- NO

サブウーファーを接続しない場合に選びます。低域変換機能が働き、LFE(低音增强)信号が他のスピーカーから再生されます。

■ フロントスピーカー (XXXXX)

- LARGE

低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。

- SMALL

「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。フロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーから再生されます。「SMALL」を選ぶと、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります(「NO」に設定されている場合を除く)。

• サブウーファーが「NO」に設定されている場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定され、変えることはできません。

■ センタースピーカー (XXXXX)

- LARGE

低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。

- **SMALL**

「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。センタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーから再生されます。

- **NO**

センタースピーカーを接続しない場合に選びます。センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます（デジタルダウンミックス）。

■ サラウンドスピーカー（ XXXXX）

- **LARGE**

低域を充分に再生できる大きなスピーカーを接続した場合に選びます。フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。

- **SMALL**

「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。

サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。

- **NO**

サラウンドスピーカーを接続しない場合に選びます。

ちょっと一言

各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。

しかし、できれば低域はカットしたくないもので、したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。

全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、TONEメニューのBASSパラメーターを調節して低域を上げることをおすすめします。低域の調節については27ページをご覧ください。

準備9：スピーカーのレベルとバランスを調節する

（テストトーン）

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節してください。この操作はリモコンで行います。

ちょっと一言

本機は中心周波数800 Hzのテストトーンを採用しています。

1 （電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる

2 TEST TONEを押す

本機の表示窓に「T.TONE」が表示され、各スピーカーから順番にテストトーンが outputされます。

フロント（左）→センター→フロント（右）→サラウンド（右）→サラウンド（左）→サブウーファー

3 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、LEVELメニューを使って各スピーカーのレベルとバランスを調節する

LEVELメニューの設定のしかたについて詳しくは、26ページをご覧ください。調節しているあいだ、調節中のスピーカーからテストトーンが outputされます。

4 調節が終わったら、もう一度TEST TONEを押す

テストトーンが消えます。

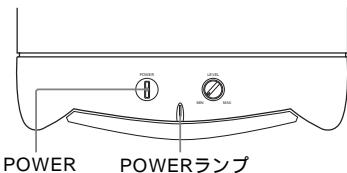
ちょっと一言

すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、リモコンのMASTER VOL + / - または本体のMASTER VOLUMEつまみで調節します。

ご注意

調節しているあいだ、選んだ値は表示窓に表示されます。

サブウーファーの音を聞く



POWER POWERランプ

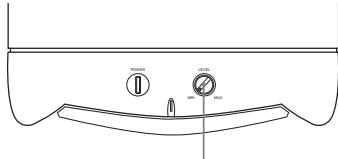
まず、本機の音量を下げます。

音源を再生する前は必ず音量を最小にしてください。

- 1 本機の電源を入れ、音源を選ぶ。
- 2 サブウーファーのPOWERを押す。
サブウーファーのPOWERランプが点灯します。
- 3 音源を再生する。

音質を調節する

音質を少し調節するだけで、より豊かな音を楽しむことができます。



- 1 LEVELつまみを回して音量を調節する。
音源に合わせてお好みの音量に調節します。

ご注意

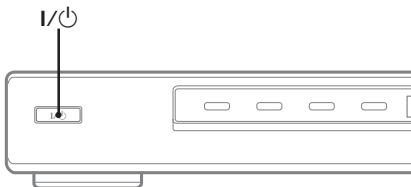
サブウーファーの音量を最大にしないでください。
雑音が入ることがあります。

設定/接続を確認する

本機を初期設定状態にする

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。

また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



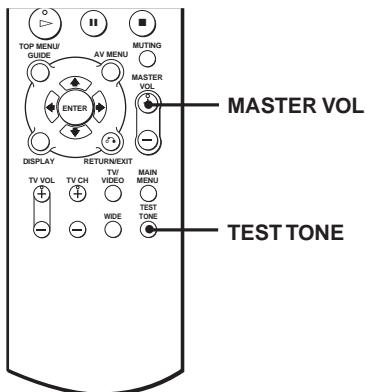
- 1 I/□(電源スイッチ)を押して、本体の電源を切る

- 2 本体のI/□(電源スイッチ)を約5秒間押し続ける

「INITIAL」と表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- SET UP、LEVEL、TONEの各メニューで設定した内容
 - サウンドフィールドのパラメーター
 - 登録した放送局
 - 入力や登録した放送局ごとに記憶したサウンドフィールド
- また、音量が最小(MIN)になります。

すべてのスピーカーから音が 出ているか確認する



1 **MASTER VOL +**を押す
(ボリューム値のめやす: 20~30程度)

2 **TEST TONE**を押す
各スピーカーから順番にテストトーン
が output されます。
フロント(左)→センター→フロン
ト(右)→サラウンド(右)→サラウ
ンド(左)→サブウーファー
テストトーンを出力中、何も聞こえな
かったり、本機の表示窓に表示されて
いるスピーカー名と異なるスピーカー
からテストトーンが出たときは、ス
ピーカーコードがショートしているか、
誤配線の恐れがあります。このときは
もう一度スピーカーコードの接続を確
認してください。

3 **TEST TONE**をもう一度押し
て、テストトーンを消す

つないだ機器の音を聞く

機器を選ぶ

1 入力ボタンを押す

本体で選ぶときはINPUT SELECTORをくり返し押します。

見たい、聞きたい機器	押すボタン
ビデオデッキ	VIDEO
DVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”	DVD
テレビ	TV
衛星放送チューナー*	SAT
ラジオ	TUNER

* BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンのファンクションボタンの設定を変更し、9に割り当ててください（33ページ）。設定を変更しないと、本機のリモコンでBSデジタルチューナーを操作できません。

2 機器の電源を入れて、再生する

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのテレビに接続する機器を選んだときは、テレビの電源を入れて、入力を切り換えてください。

3 MASTER VOL + / - を押して、音量を調節する

本体で調節するときは、MASTER VOLUMEを回します。

音を一時的に消したいときは

MUTINGボタンを押す。ミューティング中は表示窓に「MUTING」と表示されます。解除するには、MUTINGをもう1度押すか、音量を上げます。本機の電源を切ったときは、電源コードを抜いたときも解除されます。

DVDプレーヤー（別売り）でDVDを再生する

DVDプレーヤーや“プレイステーション2”を接続したときは、DVDをお楽しみいただけます。

1 DVDを押す

2 テレビの入力を選ぶ

詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”にDVDを入れる

4 DVDを再生する

アナログ音声出力端子につないだ機器の音を聞く

本機のデジタル端子（TV/SATおよびDVDのOPT/COAX IN）、アナログ端子（TV/SATおよびDVDのAUDIO/VIDEO IN）の両方に他の機器を接続し（5ページ）、アナログ端子につないだ機器の音声を聞きたいときは、デジタル端子につないだ機器の電源を切ってください。

それでも音が出ないときは

SET UPメニューで、TV/SATまたはDVDの音声入力モードが「AUTO」になっていることを確認してください（29ページ）。

また、そのときに「ANLG」を選択して設定を変えると、アナログ端子につないだ機器の音声が優先的に出力されるようになります。

表示窓に点灯する項目について



① DIGITAL

ドルビーデジタル記録された信号をデコードしているときに点灯します。

② DTS

DTS信号が入力されたときに点灯します。

③ SW

サブウーファーの設定が「YES」になっていて(13ページ)、SUB WOOFER端子から音声信号を出力しているときに点灯します。

④ 再生チャンネル表示

現在本機が出力しているチャンネルを表示します。文字が点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。

文字(L, C, R, SL, SR)はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルに集約されるのかを示します。「C.ST.EX」などのサウンドフィールドでは、さらにこの信号をもとにして残響成分を生成しています。

L: フロント左 R: フロント右

C: センター(モノラル)

SL: サラウンド左

SR: サラウンド右

S: サラウンド(モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分)

例:

記録形式(フロント/サラウンド): 3/2.1

再生チャンネル:

サラウンドスピーカーなし

サウンドフィールド: A.F.D. AUTO

L C R
SL SR

⑤ チューナー表示

ラジオを使っているときに点灯します。詳しくは21~23をご覧ください。

⑥ D.RANGE

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。詳しくは27ページをご覧ください。

⑦ COAX

デジタル信号がCOAX端子から入力されたときに点灯します。

⑧ OPT

デジタル信号がOPT端子から入力されたときに点灯します。

⑨ LFE

再生中のディスクにLFE(低音増強)のチャンネルが存在し、実際にLFE信号の音が再生されているときに点灯します。

⑩ MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

ご注意

MPEG-2 AACに関しては、アルゴリズム:(LC(Low Complexity))にのみ対応しています。

⑪ PRO LOGIC (II)

「PRO LOGIC」は、2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力している

ときに点灯します。「DOLBY PRO LOGIC II」は、プロロジックII処理（「PLII MOV」または「PLII MUS」）を行っているとき（24ページ）に点灯します。ただし、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方が「NO」と設定されているとき、「A.F.D. AUTO」、「DOLBY PL」、「PLII MOV」または「PLII MUS」が選ばれているときは点灯しません。

ご注意

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIは、DTS、MPEG-2 AACフォーマットの信号には働きません。

FM/AMラジオを聞く

内蔵のチューナーで、FM/AMラジオを楽しむことができます。操作の前にアンテナの接続を確認してください（8ページ）。

ちょっと一言

本機の周波数ステップは、FM：0.1 MHz、AM：9 kHzです。

手動でラジオ局を受信する

リモコンの数字ボタンを使って、ラジオ局の周波数を直接入力します。

1 TUNERをくり返し押して、FMまたはAMバンドを選ぶ

2 D.TUNINGを押す
ALTボタンが点灯します

3 数字ボタンを押して、周波数を入力する

例1：FM 81.30 MHz

8 → 1 → 3の順に押す

（最後の「0」は不要です）

例2：AM 1350 kHz

1 → 3 → 5 → 0の順に押す

AMラジオを受信したときは、AMアンテナの向きを受信状態の良い方向に変えてください。

入力した数字が点滅し、受信できないときは

手順2と3をもう一度行い、周波数を正しく入力する。

それでも受信できない場合は、お住まいの地域ではその周波数は受信できません。

[次のページへ続く](#)

ちょっと一言

- 受信したい周波数を正確に覚えていないときは、希望する周波数に近い数字を入力してTUNING +またはTUNING -を押すと、自動的に希望する放送局の周波数を受信します。受信したい周波数が入力した数字より上にありそうなときはTUNING +を、下にありそうなときはTUNING -を押します。
- 表示窓に「STEREO」が点滅しているときや、FMステレオ放送の受信状態がよくないときは、FM MODEを押して「MONO」を表示させます。モノラルになりますが、聞きやすくなります。ステレオに戻すときは、もう一度FM MODEを押します。

自動でラジオ局を受信する

希望する放送局の周波数がわからないときは、本機が受信可能な放送局を探して自動的に受信します。

1 TUNERをくり返し押して、FMまたはAMバンドを選ぶ

2 TUNING +またはTUNING -を押す

TUNING +を押すと高い周波数に、TUNING -を押すと低い周波数に向かって、受信できるラジオ局を自動的に探します。ラジオ局を受信すると、自動的に止まります。

3 他の放送局を探すときはもう一度TUNING +またはTUNING -を押す

ラジオ局を記憶させる

(プリセット)

FM/AMラジオ局をあわせて30局まで記憶させることができます(プリセット)。よく聞くラジオ局をプリセットして、簡単に選局できます。

ラジオ局をプリセットする

1 TUNERを押す

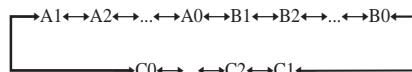
2 プリセットしたいラジオ局を、手動(21ページ)または自動(22ページ)で受信する

3 MEMORYを押す

表示窓に「MEMORY」が数秒間表示されます。表示が消える前に操作4を行ってください。

4 PRESET +またはPRESET -を押して、プリセット番号を選ぶ

押すたびに、次のようにプリセット番号が変わります。



プリセット番号を選ぶ前に「MEMORY」表示が消えたときは、手順3からやり直してください。

5 もう一度MEMORYを押し

て、ラジオ局を登録する。

ラジオ局を登録する前に「MEMORY」表示が消えたときは、手順3からやり直してください。

6 他のラジオ局をプリセットするときは、手順2~5をくり返す。

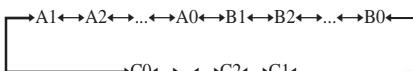
プリセット番号を他の放送局に変更する

手順1~5を行って他の放送局を登録してください。

プリセットしたラジオ局を呼び出す

プリセットした放送局を探す

- 1 TUNERを押す。
- 2 PRESET +またはPRESET - を押して、
プリセット番号を選ぶ。
押すたびに、次のようにプリセット局を
探します。



プリセット番号を使って直接選局するには

- 1 TUNERを押す。
- 2 SHIFTを押してメモリーページ（A、BまたはC）を選び、数字ボタンで聞きたい放送局のプリセット番号を入力する。

ちょっと一言

本体のPRESET TUNING + / - でもプリセットしたラジオ局を選べます。

サラウンド効果を楽しむ

入力音声を自動的に判別する

(AUTO FORMAT DIRECT)

入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。

このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。また、LFE信号が存在しないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。

A.F.D.を押して、「A.F.D. AUTO」を選ぶ

2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞く

(ドルビープロロジックII)

本機はドルビープロロジックIIのムービーモード／ミュージックモード処理に対応しています。2チャンネルの音声をドルビープロロジックIIでは5.1チャンネルで、ドルビープロロジックでは4チャンネルで聞くことができます。

□□PL/PLIIをくり返し押して、「DOLBY PL」、「PLII MOV」または「PLII MUS」を選ぶ

■ DOLBY PL (DOLBY PRO LOGIC)

ドルビープロロジック処理を行います。マルチチャンネルの音声は原音のまま再生されます。2チャンネルで記録されている音を4チャンネルにデコードして再生します。

■ PLII MOV (PRO LOGIC II MOVIE)

ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。

■ PLII MUS (PRO LOGIC II MUSIC)

ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。

ちょっと一言

本体の□□PLIIボタンでも「DOLBY PL」、「PLII MOV」、「PLII MUS」を選びます。

ご注意

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIは、DTS、MPEG-2 AAC信号のときは働きません。

サウンドフィールドを選ぶ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

フロントスピーカーのみから音を出す（2CH STEREO）

フロントL/Rの2つのスピーカーのみから音を出します。

標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

SOUND FIELD + / - をくり返し押して、「2CH ST.」を選ぶ

ご注意

- 2CH STEREOモードでは、サブウーファーから音が出ません。フロントL/Rスピーカーとサブウーファーを使って2チャンネルステレオ音声を再生するには、A.F.D.をくり返し押して、「A.F.D. AUTO」を選んでください。
- マイクロサテライトスピーカーを選んでいるときは（13ページ）低音変換回路が自動的に働き、サブウーファーから低域成分が再生されます。この設定で2チャンネルステレオ音声を再生するときは低音を正しく再生するために「A.F.D. AUTO」に設定することをおすすめします。

その他のサウンドフィールドを選ぶ

SOUND FIELD + / - をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。それぞれのサウンドフィールドについて詳しくは以下をご覧ください。

DCS（デジタルシネマサウンド）について

ソニーは、ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの協力によりダビングスタジオの音場を測定し、そのデータとソニー独自のDSP（Digital Signal Processor：デジタル信号処理）技術との組み合わせによりデジタルシネマサウンドを開発しました。デジタルシネマサウンドは、映画製作者が意図した理想的なシアター音場効果をホームシアターで再現します。

■ C.ST.EX A (CINEMA STUDIO EX A) DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ C.ST.EX B (CINEMA STUDIO EX B) DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ C.ST.EX C (CINEMA STUDIO EX C) DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

シネマスタジオEXモードについて

シネマスタジオEXの各モードは、次の3つの要素から成り立っています。

- 「Virtual Multi Dimension」
(バーチャルマルチディメンション)
1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
- 「Screen Depth Matching」
(スクリーンデプスマッチング)
映画館のように、音がスクリーンの中から出てくるような感覚を作り出します。

サラウンド効果を楽しむ

次のページへ続く

- ・「Cinema Studio Reverberation」
(シネマスタジオリバーブレーション)
映画館独特の残響を再現します。
シネマスタジオEXは、これら3要素を同時に動作させる統合モードです。

ご注意

- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。

■ HALL

長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ (JAZZ CLUB)

ジャズクラブの音響を再現します。

■ CONCERT (LIVE CONCERT)

300席あるライブハウスの音響を再現します。

サラウンド効果を解除するには

A.F.D.を押して「A.F.D. AUTO」を選ぶ、またはSOUND FIELD + / - をくり返し押して「2CH ST.」を選ぶ。

ちょっと一言

- ・各入力で最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています(サウンドフィールドリンク)、入力を選ぶと、前回その入力で選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えばサウンドフィールドの「HALL」を選んでDVDを見て、いったん入力を変えて、再びDVDに戻ると「HALL」のサウンドフィールドで聞くことができます。
- ・DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
 -  [DOLBY DIGITAL] : ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
 -  [DOLBY SURROUND PRO LOGIC] : ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
 -  [dts SURROUND] : DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト
- ・サンプリング周波数96 kHzのデジタル信号が入力されたときは、「PCM 96k」と表示され、サウンドフィールドはオフになります。
- ・MPEG-2 AAC信号が入力されているときはサウンドフィールドはオフになります。2CH、A.F.D.、MOVIE、MUSICを押しても、サウンドフィールドは選択できません。

サウンドフィールドの効果を調節する

レベルパラメーターやトーンパラメーターを使って、お好みに応じてサウンドフィールドの効果を調節できます。

サウンドフィールドの効果を調節する前にスピーカーの位置を決め、「準備5：スピーカーを設置する」(9ページ)と「すべてのスピーカーから音が出ているか確認する」(18ページ)の手順を行ってください。

スピーカーのレベルやバランスを調節する

各スピーカーのバランスやレベルを調節できます。リスニングポジションに座り、テストトーンが同じ大きさに聞こえるように調節します。「EFCT.」パラメーター以外の調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。「EFCT.」パラメーターの設定は、サウンドフィールドごとに記憶されます。

1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源(DVDなど)を再生する

2 MAIN MENUをくり返し押して、「<LEVEL>」を選ぶ

3 ▲または▼を押して、調節したいパラメーターを選ぶ

4 ←または→を押して、お好みの設定を選ぶ

LEVELメニューの設定項目

お買い上げ時は下線のパラメーターに設定されています。

■フロントスピーカーバランス (BAL. L/R XXX)

お買い上げ時の設定 : (BALANCE)

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。L (+1 ~ +8) R (+1 ~ +8) の範囲内で1段階ごとに調節できます。

■センタースピーカーレベル (CTR XXX dB)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■サラウンドスピーカー(左)レベル (SURL. XXX dB)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■サラウンドスピーカー(右)レベル (SUR.R. XXX dB)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■サブウーファーレベル (S.W. XXX dB)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ ダイナミックレンジの圧縮 (COMP. XXX)

お買い上げ時の設定 : OFF

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。「MAX」をおすすめします。

• OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

• STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

• MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

■ EFCT. XXX

(エフェクトレベル)

お買い上げ時の設定 : STD

サラウンド効果の大きさを設定します。

「MAX」にするとサラウンド効果が大きくなります。「MIN」にすると、サラウンド効果が小さくなります。

* MULTI IN時は別々に設定できます。

TONEメニューを調節する

フロントスピーカーの音質(低音や高音)を調節できます。調節した内容はすべてのサウンドフィールドに反映されます。

1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源(DVDなど)を再生する

2 MAIN MENUをくり返し押して、「<TONE>」を選ぶ

3 ↑または↓を押して、調節したいパラメーターを選ぶ

4 ←または→を押して、お好みの設定を選ぶ

TONEメニューの設定項目

■ BASS XX dB

(フロントスピーカーの低域レベル)

■ TREB. XX dB

(フロントスピーカーの高域レベル)

お買い上げ時の設定：0 dB

いずれも ± 6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

ご注意

マイクロサテライトスピーカーや他の小さいスピーカーを使うときは、サブウーファーのLEVELを調節して17ページ低音を増強してください。

サウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻す

1 I/O (電源スイッチ) を押して電源を切る

2 本体のSOUND FIELDを押しながら、 I/O (電源スイッチ) を押す

表示窓に「SF. CLR.」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の状態に戻ります。

その他の操作 / 設定

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本体の電源を自動的にオフにすることができます。

ALTを押した後、SLEEPを押す
SLEEPを押すごとに、時間表示が次のように切り換わります。

2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 →
0-30-00 → OFF

スリープタイマーが働いているときは、表示窓が暗くなります。

ちょっと一言

本体の電源がオフするまでの残り時間を確認するには、ALTを押した後、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

SET UPメニューを使った設定をする

SET UPメニューを使って、さまざまな設定ができます。

- 1 MAIN MENUをくり返し押して、「<SET UP>」を選ぶ
- 2 **↑または↓**を押して調節したいパラメーターを選ぶ
- 3 **←または→**を押して、お好みの設定を選ぶ
- 4 他の項目を設定するときは、手順2と3をくり返す

SET UPメニューの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■ DVDの音声入力モードの選択 (DVD-XXXX)

入力がDVDのときの音声入力モードを選びます。

- AUTO
デジタル音声信号とアナログ音声信号が入力されたときはデジタル音声信号が優先されます。デジタル信号がない場合はアナログ音声信号が選ばれます。
- OPT
DIGITAL DVD OPT IN端子に入力されたデジタル音声信号が選ばれます。
- COAX
DIGITAL DVD COAX IN端子に入力されたデジタル音声信号が選ばれます。
- ANLG
DVD IN (L/R) 端子に入力されたアナログ音声信号が選ばれます。

次のページへ続く

■ TV/SATの音声入力モードの選択 (TV-XXXX)

入力がTV/SATのときの音声入力モードを選びます

• AUTO

デジタル音声信号とアナログ音声信号が入力されたときはデジタル音声信号が優先されます。デジタル信号がない場合はアナログ音声信号が選ばれます。

• OPT

DIGITAL TV/SAT OPT IN端子に入力されたデジタル音声信号が選ばれます。

• ANI G

TV/SAT IN (L/R) 端子に入力されたアナログ音声信号が選ばれます。

■ デジタル音声入力モード (DEC XXXX)

お買い上げ時は、入力がDVDのときは「DEC. PCM」に、入力がTV/SATのときは「DEC. AUTO」に設定されています。

デジタル音声端子に入力される信号の種類を選択します。通常は、お買い上げ時の設定でご使用ください。

• DEC PGM

音楽CD（PCM）やDVDの再生に適しています。
CDやDVD以外の音源を再生するときに選ぶと、
ノイズが聞こえることがあります。そのときは
「DEC. AUTO」に設定してください。

- DEC AUTO

音楽CD（PCM）、DVD、DTS-CD、DTS-LDの再生に適しています。ただし、音楽CDの再生開始時に音が途切れることがあります。

■ バイリンガル（二重音声）の再生モード（AAC XXXX）

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。リモコンのAAC BII INGUAL でも設定できます。

• M/S

左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

• MAIN

主音声のみを再生します

• SUB

副音声のみを再生します。

• M_±S

主音声と副音声が合成される

十一

五　よつと一言

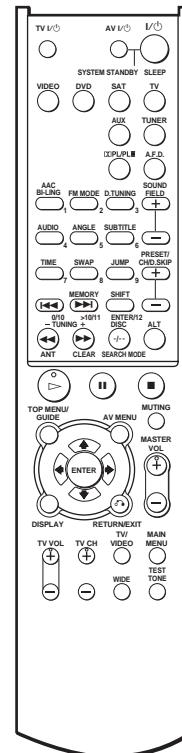
MPEG-2 AAC

テレビやBSデジタルチューナー側の設定で、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。

リモコンの各部の名称と働き

リモコンを使って、他のソニー製機器を操作することができます

機器によっては操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。本機では、リモコンのAUXボタンは使用しません。



リモコンのボタン	操作できる機器	機能
A.F.D.	レシーバー	A.F.D. AUTOを選ぶ
AAC BI- LING	レシーバー	二重音声の再生モードを選ぶ
D.TUNING	レシーバー	放送局を手動受信モードにする
DVD	レシーバー	DVDを見る
FM MODE	レシーバー	FMモード(モノラル/ステレオ)を選ぶ
MAIN MENU	レシーバー	メニューを選ぶ
MASTER VOL + / -	レシーバー	レシーバーの音量を調節する
MEMORY	レシーバー	放送局を登録する
MUTING	レシーバー	レシーバーの音をミュートする
SAT	レシーバー	衛星放送を見る
SHIFT	レシーバー	放送局を登録するときや、登録した放送局を選ぶときに、くり返し押してメモリーページを選ぶ
SLEEP	レシーバー	スリープタイマーを使ってレシーバーの電源がオフするまでの時間を設定する
SOUND FIELD + / -	レシーバー	サウンドフィールドを選ぶ
TEST	レシーバー	テストトーンをオン/オフする
TONE	レシーバー	ラジオを聞く
TUNER	レシーバー	放送局を受信する
TUNING + / -	レシーバー	テレビ番組を見る
TV	レシーバー	ビデオを見る
VIDEO	レシーバー	電源をオン/オフする
I/□	レシーバー	メニューの項目を選ぶ
◀/▼	レシーバー	設定を変える、調節する
◀/▶	レシーバー	DOLBY PL、PLII MOV、PLII MUSを選ぶ
□ PL/PLII	レシーバー	

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
ALT	リモコン	オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときに押す
ANGLE	DVDプレーヤー	アングルを選ぶ、または変える
ANT	ビデオデッキ	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ(テレビまたはビデオ信号)
AUDIO	テレビ/ビデオ	音声を選ぶ(マルチ/バイリンガル)
AV MENU	ビデオデッキ/	メニューを表示する
	衛星放送	
	チューナー/	
	DVDプレー	
	ヤー	
AV I/□	テレビ/ビデオ	オーディオ/ビデオ
	デッキ/CDプレーヤー/	機器の電源をオン/オフする
	DVDプレー	
CLEAR	DVDプレー	数字ボタンを使って入力した数字をクリアする、または、ふつうの再生に戻す
DISC	CDプレーヤー	ディスクを直接選ぶ(チェンジャーのみ)
DISPLAY	テレビ/ビデオ	テレビ画面に出る表示を選ぶ
JUMP	テレビ	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
ENTER	ビデオデッキ/	選んだ項目を確定する
	衛星放送	
	チューナー/	
	DVDプレー	
	ヤー	
ENTER/12	テレビ/ビデオ	数字ボタンでチャン(ALTボタンを押して送)を選ぶ、ディスク、トランクを選んだあと、押して確定する
	デッキ/衛星放送	
	チューナー	
	テレビ	12チャンネルを選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
PRESET/CH/D.SKIP	チューナー	登録した放送局を探す / 選ぶ
+ / -	テレビ/ビデオ デッキ/衛星放送 送チューナー	プリセットチャンネルを選ぶ
	CDプレーヤー /DVDプレーヤー	ディスクをスキップする (チェンジャーのみ)
RETURN	DVDプレーヤー	前のメニューに戻る、またはメニュー確定をやめる
♪/EXIT	ヤー	衛星放送 メニュー設定をやめる チューナー
SEARCH MODE	DVDプレーヤー	サーチモードを選ぶ サーチする単位 (トラック、インデックスなど) を選ぶ
SUBTITLE	DVDプレーヤー	字幕を選ぶ
SWAP*	テレビ	大画面と小画面を入れ替える
SYSTEM STANDBY	レシーバー / テレビ	レシーバーとソニー製オーディオ/ビデオ機器の電源を切る
(I/□を押しながらAV 送チューナー / I/□を押す)	デッキ/衛星放送 CDプレーヤー /DVDプレーヤー	CDプレーヤー /DVDプレーヤー
TIME	CDプレーヤー /DVDプレーヤー	時間情報を見る
TOP MENU/	DVDプレーヤー ヤー	DVDのタイトルを表示する
GUIDE	衛星放送 チューナー	ガイド画面を表示する
TV CH + / -	テレビ	テレビのチャンネルを選ぶ
TV VOL + / -	テレビ	テレビの音量を調節する
TV I/□	テレビ	テレビの電源をオン/オフする
TV/VIDEO	テレビ	入力信号を選ぶ (テレビまたはビデオ入力)
WIDE	テレビ	ワイド画面を選ぶ

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
◀◀/▶▶	ビデオデッキ / CDプレーヤー /DVDプレーヤー	トラックを戻す/進める
◀◀/▶▶	CDプレーヤー /DVDプレーヤー	トラックを (順または逆方向に) サーチする
	ビデオデッキ	早送りまたは巻き戻しする
▷	ビデオデッキ / CDプレーヤー /DVDプレーヤー	再生する
II	ビデオデッキ / CDプレーヤー /DVDプレーヤー	再生または録音を一時停止する (録音一時停止中に押すと録音を始める)
■	ビデオデッキ / CDプレーヤー /DVDプレーヤー	停止する
↑/↓/◀/▶	ビデオデッキ / 衛星放送 チューナー / DVDプレーヤー	メニュー項目を選び、真ん中を押し込んで確定する
>10/11 (ALTボタンを押してから)	CDプレーヤー	10以上のトラック番号を選ぶ
11チャンネルを選ぶ	テレビ	11チャンネルを選ぶ
-/-	テレビ	チャンネル入力モードを選ぶ (1文字または2文字)
1-9、0/10 (ALTボタンを押してから)	レシーバー	放送局を登録する時、D.TUNING、SHIFTボタンとともに使って数字を入力する
	CDプレーヤー	トラック番号を選ぶ 0を押すと10が入力されます
	テレビ/ビデオ デッキ/衛星放送 送チューナー	チャンネル番号を選ぶ

* ピクチャーアンピクチャー機能がついたソニー製テレビのみ

ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、先にALTを押してください。
- 本機の操作をするために◀/▶/◀/▶を使うときは、先にMAIN MENUを押してください。リモコンで衛星放送チューナー、ビデオデッキ、DVDプレーヤーを操作するときは、先にTOP MENU/GUIDEまたはAV MENUを押してください。
- AUXボタンは本機ではありません。
- ソニー製の機器のみ操作できます。

リモコンの入力ボタンの設定を変える

実際にお使いの機器に合わせて、付属のリモコンの入力ボタンの設定を変えることができます。例えば、CDプレーヤーを持っていて、DVDプレーヤーを持っていない場合には、DVDボタンにCDプレーヤーを割り当てることができます。

1 設定を変えたいリモコンの入力ボタン (VIDEO/DVD/SAT/TV/TUNER) を押し続ける

例：DVDを押し続ける。

2 リモコンの入力ボタンに割り当てる機器のボタンを押す

例：CDプレーヤーを操作できるようにしたいので、1ボタンを押す。

機器を選ぶボタンは以下のように設定されています。

操作する機器	押すボタン
CDプレーヤー	1
ビデオデッキ (VTRモード2*)	2
ビデオデッキ (VTRモード3*)	3
DVDプレーヤー	4
テレビ	5
デジタルCSチューナー	8
BSデジタルチューナー **	9
チューナー	0/10

* ソニー製ビデオデッキはVTR2または3の設定で使用できます。これらはそれぞれ3ミリ、VHSに対応します。

**BSデジタルチューナーは、SAT端子がないでも、必ず9に割り当ててください。

すべてのボタンの設定をお買い上げ時
の状態に戻すには
I/O、AV I/O、MASTER VOLUME - を同
時に押す。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。
(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、サブウーファーおよびスピーカースタンド（別売り）などを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー やベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

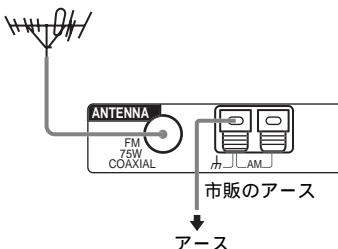
症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 →本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 →MASTER VOLUMEが「VOL MIN」になっていないか確認する。 →MUTINGを押して、ミュート機能を解除する。 →保護回路が働いている（「PROTECT」が点滅する）本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 →接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。 →本機で正しく機器を選んだか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 →接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	→再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 →DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力（デジタル音声出力）の設定を確認する。 →DVDプレーヤー側で、音声を正しく選んでいるか確認する（DVDメニューの音声設定を確認する）
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 →LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	→スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 →接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。 →テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 →プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→サウンドフィールドが働いているか確認する（SOUND FIELD + / - を押す） →シネマスタジオEXモードを選ぶ（25ページ） →スピーカーの音量を調節する（16ページ） →センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（15ページ）
サブウーファーの音が聞こえない	→「NORM. SP.」を選んでいるときは、サブウーファーの選択が「YES」に設定されているか確認する（13ページ） →サブウーファーが正しく接続されているか確認する。 →サウンドフィールドによってはSUB WOOFER端子から音が出ません。

症状

原因と対応のしかた

FMの受信状態が良く → 市販の75Ω 同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぐ。
ない

屋外アンテナ



アース線をつなぐときは市販のビニール電線をアース端子(△)につなぎ、もう一方の端を銅製の金属棒につないで地中に埋めます。ガス管につなぐのは危険です。絶対にやめましょう。

放送局が受信できない → アンテナが正しく接続されているか確認する。アンテナの向きなどを調節する。屋外アンテナを使用する。

- 自動受信をしている場合、受信状態が悪い。手動受信する。
- プリセットチューニングしている場合、何も登録されていない、または登録した放送局を消してしまった。登録する(22ページ)。

サラウンド効果が得られない → サウンドフィールドが働いているか確認する(SOUND FIELD + / - を押す)。

テレビ画面に映像がない、または明瞭でない → 適切な入力を選ぶ。

- テレビの入力モードを確認する。
- テレビをオーディオ機器から離す。

リモコンで操作できない → AUXボタンは働きません。

- 本体のリモコン受光部に向けて操作する。
- リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池を交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。
- BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンの入力ボタンの設定で9に割り当てる(33ページ)。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー

参照ページ

全てのメモリー

17ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SL80
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード： 35W + 35 W
(JEITA)

サラウンドモード：

フロント部*： 35 W/チャンネル
センター部*： 35 W
サラウンド部*： 35 W/チャンネル
(JEITA)

* サウンドフィールドによっては音が出ません

周波数特性

TV/SAT、DVD、VIDEO

10 Hz ~ 50kHz
+0.5/-3 dB (サウンド
フィールド、トーンオフ時)

入力 (アナログ)

TV/SAT、DVD、VIDEO

入力感度： 250 mV
インピーダンス： 50 k
S/N比¹⁾： 96 dB
(A、 250 mV²⁾)

入力 (デジタル)

DVD (同軸)
入力感度： -
インピーダンス： 75
S/N比： 100 dB
(A、 20 kHz LPF)

DVD、TV/SAT (光)
入力感度： -
インピーダンス： -
S/N比： 100 dB
(A、 20 kHz LPF)

出力

SUB WOOFER
出力： 2 V
インピーダンス： 1 k

トーン

レベル ± 6 dB、 1 dBステップ

映像入力 1 Vp-p、 75

映像出力 1 Vp-p、 75

1) INPUT SHORT (サウンドフィールド、トーン
オフ)

2) Weight network, input level

FMチューナー部

受信周波数 76.0 ~ 90.0 MHz

アンテナ 75 、不平衡型

中間周波数 10.7 MHz

感度

モノ： 新IHF : 18.3 dBf
IHF : 2.2 μ V/75

ステレオ： 新IHF : 38.3 dBf
IHF : 22.5 μ V/75
実用感度 新IHF : 11.2 dBf
IHF : 1 μ V/75

S/N

モノ： 76 dB

ステレオ： 70 dB

高調波ひずみ率

モノ： 0.3 %

ステレオ： 0.5 %

ステレオ分離度 45 dB (1 kHz)

周波数特性 30 Hz ~ 15 kHz
(+ 0.5 / - 2 dB)

実効選択度 60 dB
(400 kHz)

AMチューナー部

受信周波数 531 kHz ~ 1,602 kHz

アンテナ ループアンテナ

中間周波数 450 kHz

実用感度 50 dB/m (999 kHz)

S/N 54 dB (50 mV/m)

高調波ひずみ率 0.5 % (50 mV/m、 400
Hz)

実効選択度 35 dB (9 kHz)

電源、その他

電源 AC 100 V、 50/60 Hz

消費電力 100W

スタンバイ時： 0.3 W

最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)

430 × 56 × 290 mm

質量 約 4.5 kg

サテライトスピーカー部

SS-SLP70

(フロントスピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、
防磁型

使用スピーカー 40 mm × 70 mm、コーン型

定型インピーダンス 8

最大入力 (JEITA) 35 W

出力音圧レベル 84 dB (1 W、 1 m)

実効周波数帯域 160 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)

約 246 × 1053 × 246 mm

質量 約 4.0 kg

SS-SRP70

(サラウンドスピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、
防磁型

次のページへ続く

使用スピーカー	55 mm × 110 mm、コーン型
定型インピーダンス	8
最大入力 (JEITA)	35 W
出力音圧レベル	86 dB (1 W、1 m)
実効周波数帯域	160 Hz ~ 20,000 Hz
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)	約76 × 162 × 106 mm
質量	約 0.8 kg

SS-CNP70 (センタースピーカー)	40 mm × 70 mm、コーン型
形式	フルレンジ、バスレフ型、防磁型
使用スピーカー	40 mm × 70 mm、コーン型
定型インピーダンス	8
最大入力 (JEITA)	35 W
出力音圧レベル	84 dB (1 W、1 m)
実効周波数帯域	160 Hz ~ 20,000 Hz
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)	約430 × 86 × 76 mm
質量	約 1.4 kg

SA-WMSP70 (サブウーファー)	アコースティック
形式	ローテッドバスレフ型、防磁型
使用スピーカー	20 cm、コーン型
実用最大出力	100 W (JEITA、8 負荷)
周波数帯域	28 Hz ~ 200 Hz
カットオフ周波数	150 Hz
入力	LINE IN (ピンジャック)
電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	80 W
最大外形寸法 (幅/高さ/奥行き)	270 × 325 × 398 mm
質量	約 10 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。



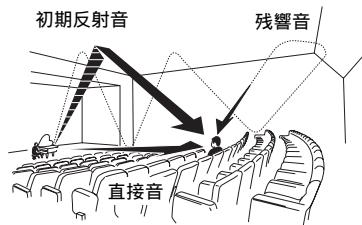
- 待機時消費電力0.3W以下
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません

用語解説

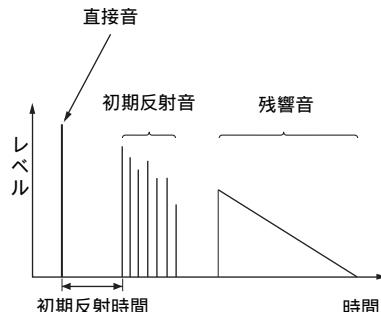
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

音の種別



サラウンドスピーカーからのサウンドの遷移



デジタルシネマサウンド

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しんでいただくために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称です。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発されました。

ドルビーデジタル

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。サラウンド出力をステレオ化した上で周

波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります（サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます）。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

ドルビープロロジック（II）

2チャンネルに記録されている音源をマトリックス方式によりマルチチャンネル化させる技術です。

- DOLBY PL (ドルビープロロジック)
フロント、センターの再生帯域は20~20KHz。サラウンドチャンネルはモノラルで再生帯域は100~7KHzの4チャンネル構成です。正しいサラウンド効果を得るためににはドルビーサラウンドエンコードされた音源が前提です。
- PLII MOVIE (ドルビープロロジックIIムービー)
あらゆるステレオ音源を5.1チャンネルに拡張再生します。映画音声の再生に適した定位感をもつように設定されており、サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20~20KHzの広帯域となっています。
- PLII MUSIC (ドルビープロロジックIIミュージック)
音楽再生に適した5.1チャンネル拡張再生で、サラウンドチャンネルは定位感よりも包囲感が得られるよう設定されています。サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20~20KHzの広帯域となっています。

AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発した、MPEG-2オーディオ標準方式の中の一つで、マルチチャンネル音声再生を可能とするフォーマットです。

高音質・高圧縮率を両立することができ、特に低ビットレート（高圧縮率）の環境では、ドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）など、従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することができます。わずか96 kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる高品質のステレオ音声を伝送することができるこの音声符号化規格は、2000年の年末に始まったBSデジタル放送で採用されています。

各部の名前と参照ページ

このページの使いかた

イラストの番号

本書で説明しているボタンなどの場所が分からない
ときに、このページで見つけることができます。

MUTING **12** (19)

ボタンなどの名前 参照ページ

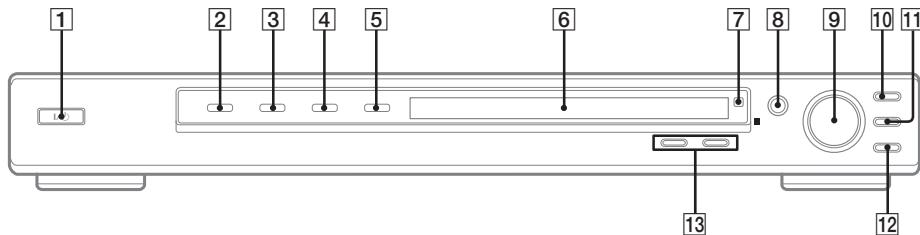
本体

アルファベット/数字順

DVD (ランプ) **3**
INPUT SELECTOR **8** (19)
MASTER VOLUME **9** (19)
MUTING **12** (19)
SOUND FIELD **11** (28)
PRESET TUNING + / - **13**
(22)
TUNER (ランプ) **5**
TV/SAT (ランプ) **4**
VIDEO (ランプ) **2**

五十音順/記号

リモコン受光部 **7**
表示窓 **6**
I/Off (電源) **1** (16、17、28)
DPLII **10**



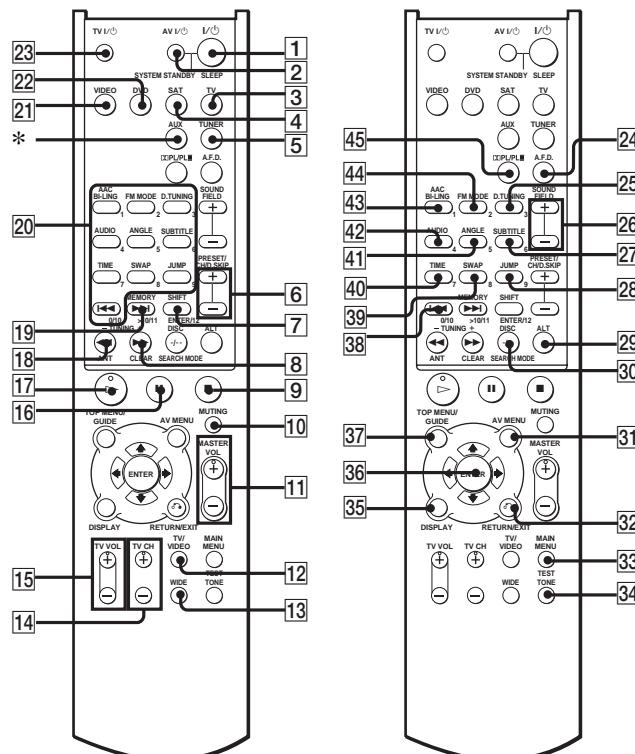
リモコン

アルファベット/数字順

- A.F.D. **24** (24, 26)
- AAC BI-LING **43** (30)
- ALT **29** (29)
- ANGLE **41**
- ANT **18** (30)
- AUDIO **42**
- AV I/O **2**
- AV MENU **31**
- CLEAR **8**
- D.TUNING **25**
- DISC **30**
- DISPLAY **35**
- DVD **22** (19, 33)
- ENTER/12 **7**
- FM MODE **44**
- JUMP **28**
- MAIN MENU **33** (13, 26, 27, 29)
- MASTER VOL + / - **11** (18, 19)
- MEMORY **19** (22)
- MUTING **10** (19)
- DOPPL/PLII **45** (24)
- PRESET/CH/D.SKIP + / - **6** (22)
- RETURN **32**
- SAT **4** (19, 33)
- SEARCH MODE **30**
- SHIFT **7** (23)
- SLEEP **1** (29)
- SOUND FIELD + / - **26** (25, 26)
- SUBTITLE **27**
- SWAP **39**
- TEST TONE **34** (16, 18)
- TIME **40**
- TOP MENU/GUIDE **37**
- TUNER **5** (19, 21, 22, 33)
- TUNING + **8** (22)
- TUNING - **18** (22)
- TV **3** (19, 33)
- TV CH + / - **14**
- TV VOL + / - **15**
- TV/VIDEO **12**
- TV I/O (電源) **23**
- VIDEO **21** (19, 33)
- WIDE **13**
- 0/10 **38**

五十音順/記号

- 数字ボタン **20** (21, 23)
- I/O (電源) **1**
- ↑/↓/↔/↔/ENTER **36** (13, 26, 27, 29)
 - ▶ **8**
 - ◀ **18**
 - ▶▶ **19**
 - ◀◀ **38**
 - ▶ **17**
 - ▶▶ **16**
 - ▶ **9**
 - **30**
 - >/10/11 **19**



*本機では使用しません。

索引

さ行

サウンドフィールド
効果を調節する 26
サウンドフィールドを選ぶ 25
リセットする 28
サラウンド 26
自動受信 22
手動受信 21
初期設定 17
スピーカー
音量の調節 18、26
距離の設定 14
接続 10
設置 9
スリープタイマー 29
選択する
機器 19
サウンドフィールド 25

た行

調節する
スピーカーの音量 18、
26
LEVELパラメーター 26
TONEメニュー 27
デジタルシネマサウンド 25
テストトーン 18、26

は行

バイリンガル 30
プリセット受信 22

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● <http://www.sony.co.jp/SonyDrive/>

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は... 03-5448-3311
(ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください)

● FAX 0466-31-2595

受付時間：月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

Printed in Malaysia

A-Z

AAC 30
DCS 25
LEVELメニュー 26
TONEメニュー 27
入力音声を 24